

「津屋崎千軒かき」 養殖に成功

津屋崎千軒調査で課題浮き彫り

早急な対応を

水産高校の生徒たちを中心に、長年試行錯誤で養殖してきたかきが、このほど収穫が見込めるめどがたつた。今後の漁業振興策を検討するため現地調査を行った。併せて、観光に力を入れる市の取組みとして、津屋崎地域にある歴史建造物をどのように保存するのか「藍の家」「津屋崎千軒古民家」の現状を調査した。

(臨時会にて報告、建設環境委員会所管事務調査)

県や水産高校の協力を得ながら取り組みを進めていたかき養殖が、本年1月より販売開始となった。※ブランド名を「津屋崎千軒かき」

この事によって漁業関係者からは「獲る漁業」から「育てる漁業」への期待が広がったとの声がある。しかし、課題も多い。現在商品として出荷するには、作業を人力で行っているので効率が悪くても悪い。委員会は調査結果として、かきの大量商品化に向け機械導入のための補助金を検討すべきと提言した。

藍の家と津屋崎千軒古民家の町なみを維持するために歴史的な建物を福津市の文化財として登録し保存すべきではないか。現在津屋崎千軒の古民家の一つである豊村酒造の調査には九州大学大学院芸術工学研究院環境デザイン部門の田上健一教授が調査をし、学術的に証明していく意向である。現在進行中の世界遺産登録が決定ともなれば、観光客の来訪がふえると思われる。公衆トイレ設置を、検討すべきである。



津屋崎千軒かき